第 96 回 歴史探訪の会 『源氏物語』宇治十帖の舞台を歩こう

日　時:　令和 6 年 11 月 20 日(水)
場　所:　京都府宇治市
世話人:　林　　寛

「いづれの御時にか、女御・更衣あまた侍ひ給ひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふ、ありけり。・・・」 源氏物語の冒頭(第 1 帖　桐壺)です。 ここから長い長い平安王朝絵巻が始まります。 そして結びは、「人の隠し据ゑたるにやあらむ、と、我が御心の思ひ寄らぬ隈なく、落とし置き給へりし習ひに、とぞ、本に侍める」(第 54 帖　夢浮橋)とあっけない終末です。

この源氏物語全 54 帖のうち、最後の 10 帖は話の舞台が宇治であることから 「宇治十帖」と呼ばれます。 第 45 帖　橋姫から始まり第 54 帖　夢浮橋で完結する宇治十帖、紫式部はここ宇治の地で、「橋」 に格別な想いがあったのかもしれません。

今回は、江戸時代に作られたという宇治十帖の遺跡を8つめぐりました。 11 月後半にしては穏やかな一日で、25 名の参加者は、「宇治観光ボランティアガイドクラブ」 の 3 名のガイドさんたちの説明を聞いて、王朝ロマンに思いを馳せながら遺跡をめぐりました。

コース:　京阪宇治駅(集合)　～　①東屋(あずまや・50帖)　～　②椎本(しいがもと・46帖)　～
③手習(てならい・53帖)　～　④蜻蛉(かげろう・52帖)　～　源氏物語ミュージアム　～
⑤総角(あげまき・47帖)　～　宇治上神社　～　⑥早蕨(さわらび・48帖)　～　宇治神社　～
宇治十帖モニュメント　～　塔の島(昼食)　～
⑦橋姫(はしひめ・45帖)　～
⑧夢浮橋(ゆめのうきはし・54帖)　:　解散
〇番号は「宇治十帖」遺跡

紫式部像　☞
宇治橋のたもと、夢の浮橋ひろばにあります

宇治十帖めぐりの始まり:
京阪電車宇治駅前ひろばに集合

「宇治観光ボランティアガイドクラブ」 のガイドさん 3 名の紹介、コース説明のあと、3 つの班に分かれて遺跡めぐりに出発しました。

① **東屋(あずまや・50帖)**

東屋観音の名で親しまれている宇治市指定　文化財。
鎌倉時代の石造り聖観音菩薩坐像。

物語では； 匂宮に言い寄られて動揺する浮舟を、浮舟の母、中将の君が京・三条の東屋(東国風のひなびた家)に移し、隠れ家とした。
晩秋の時雨の夜、薫が東屋を訪れ一夜をすごしたあと、翌朝、浮舟を宇治に移した。

② **椎本(しいがもと・46帖)**

彼方神社は延喜式神名帳にみえる式内社です。
物語では； 椎の大木は八の宮のこと。 薫は八の宮を仏道の師と仰ぐ。 八の宮は死期が近いことを感じて、二人の姫たちに、宇治を離れるな、と遺言する。
信頼する薫に姫たちのことを頼み、八の宮は静かに波乱の生涯を閉じた。

椎本 から 手習 までは徒歩 10 分ほどです。

途中、「伊藤久右衛門 本店・茶房」 の前を通りました。 帰りがけだったら立ち寄るのに・・と思いながら行き過ごしました。

ガイドの倉本さんと 3 班の一行 ☞

③ 手習（てならい・53帖）

江戸時代には「手習いの杜」と呼ばれています。

物語では； 宇治川で倒れていた浮舟を横川（よかわ）の僧都とその家族が救い、洛北小野の草庵に連れ帰る。

意識を取り戻した浮舟はただ泣くばかり。 ついには出家してしまう。

④ 蜻蛉（かげろう・52帖）

黄色い道路の上をたどると蜻蛉の遺跡に着きます。 ここは江戸時代の刊行物、名所図会に紹介された宇治の名所です。

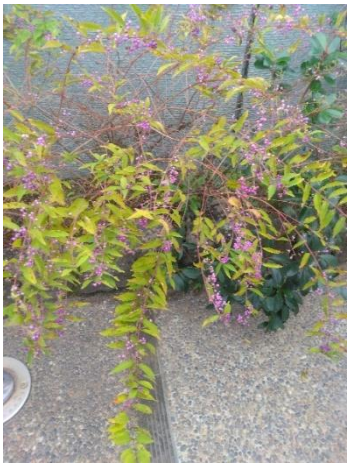
高さ約2メートルの石に阿弥陀三尊像（正面には定印を結ぶ蓮華座上の阿弥陀如来、向かって左側面には合掌する勢至菩薩、右側面には観音菩薩）が線刻されています。 平安時代の作とされ、宇治市指定文化財です。

物語では； 浮舟の姿が消えてしまい宇治の山荘は大騒ぎ。 事情を知る侍女たちは、浮舟が川に身投げして死んだとして葬儀をすませる。 薫は侍女を問い詰めて真相を知るが、夢かうつつか、蜻蛉のようにはかない存在であった恋を憂い、物思いに沈む。

源氏物語ミュージアム

源氏物語ミュージアムの玄関への通路に「コムラサキ」が。 6～7 月に可愛らしい紫色の花をつけます。 例会当日には薄紫色に結実していました。 紫式部が迎えてくれているみたいに。

下の左二つは 10 月 21 日の下見時に撮影、 右は 11 月 20 日の例会当日に撮影しました。



ミュージアムの玄関への通路両側にはもみじも植えられ、紅葉すると池にその姿が映っていっそう美しいそうです。 真っ赤な色づきを期待しましたが、まだ紅葉は早かったようです。

ところどころ色づいた秋を眺めながらミュージアムに向かいました。

以下はミュージアムの中の展示です。

☜ 王朝の間

牛車 ☞
（網代車 あじろぐるま 最も一般的な車）

☜ 六条院
春・夏・秋・冬の御殿がある

八の宮の館 ☞
大君・中の君を薫が垣間見る

⑤ 総角（あげまき・47帖）

源氏物語ミュージアムを出て、「さわらびの道」を経て宇治上神社に向かう途中に総角の石碑（個人製）があります。

この地で、ガイドさんから 「総角結び」 のプレゼントをいただきました。 結び方の指南書と一緒に。

王朝ロマンでは、恋のやり取りの歌に総角結びをつけて、糸のように固く結ばれたい、との思いを伝える習わしがあったそうです。 現在でも神社や大相撲に総角結びが使われています。

物語では； 八の宮の一周忌が近づき、薫は宇治に赴いて大君に想いを告げるが、大君は父の遺言を守ってかたくなに拒む。 中の君さえいなければ・・と考えた薫は、匂宮と中の君を結ばせて自らは大君と、と考える。 匂宮は監視の目が厳しくてなかなか中の君に会うことができない。
落胆する姫たち、ついに大君は妹の行く末を心配して、
心労のあまり病が悪化して静かに息を引き取った。

与謝野晶子　宇治十帖歌碑

総角の石碑の近くに、与謝野晶子の宇治十帖歌碑があります。 与謝野晶子は源氏物語の訳者で、たびたび宇治を訪れたそうです。 歌は「橋姫」、「椎が本」、「総角」、「さわらび」、「宿り木」の5首あり、晶子の自筆になる歌が石に刻まれています。

宇治上神社

平等院と宇治上神社は宇治の人たちが誇るふたつの世界遺産です。 墓股が神社の由緒ある歴史を語ってくれます。 物語の八の宮邸があった場所は宇治上神社の辺りを想定しているらしいです。

⑥　早蕨（さわらび・48帖）

宇治上神社から宇治神社に至る「さわらびの道」沿いに早蕨の石碑があります。昭和のはじめに建てられた石柱と石碑です。 ☞

物語では； 悲しみの宇治の里にも春は訪れる。 山寺の阿闍梨

からいつものように蕨などが届く。 匂宮は中の君を京の二条院に迎えることにした。 中の君は父の戒めを守らなかったことや、姉大君の決意、わが身の行く末を思い、愁いに沈む。 一方で、薫は亡き大君、中の君に対する後悔の念に苦しむ。

宇治神社

宇治神社の祭神は 「兎道稚郎子（うじのわきいらつこ 第 15 代応神天皇の皇太子）」 です。 兎が兎道稚郎子を先導して宇治神社の場所に導いたとの故事から、神社は兎を大切にして、入り口にも、提灯にも「見返りウサギ」がいました。 折から七五三、かわいらしい女の子がきれいな着物に身を包んで丁寧に挨拶してくれました。 思わずこちらもお辞儀返し。

宇治十帖モニュメント

宇治神社を出て石段を下りると宇治川に出ます。 朝霧橋のたもとに宇治十帖モニュメントがあり、全員そろって集合写真を撮りました。 モニュメントは、宇治十帖物語の中で、浮舟と匂宮が宇治川に船を浮かべて愛を交わす、浮舟の幸せの絶頂シーンを表しています。 皆さんにもこのような幸せが訪れますように・・・ 人気スポットであり、たくさんの訪問者がここで写真を撮ります。しばらく待っていただきありがとうございました。

第96回歴史探訪の会「源氏物語」宇治十帖の舞台を歩こう
宇治十帖モニュメントにて、2024年11月20日(水)

塔の島(昼食)

　朝霧橋を渡ってやっと昼食場所である塔の島に到着しました。 午前中の探訪先が盛りだくさんで、昼食が午後 1 時前になりました。しばし休息です。

　昼食後、内海会長から連絡事項などのお話があり全員が聞きました。 宇治川では「鵜飼い」をしていて、天然のウミウと、人工ふ化した“ウッティー”君たちが別々の部屋に分かれて暮らしていました。 十三重塔も有名です。

　昼食後にめぐる遺跡は残りのふたつ、⑦「橋姫」 と ⑧「夢浮橋」。 宇治十帖の最初(45帖)と最後(54帖)です。 塔の島の十三重塔を見て喜撰橋を渡り、宇治川の南岸に出ます。 平等院を左にしながら 「あじろぎの道」 を進み、木々の隙間から鳳凰堂を“垣間見”ました。 平等院前の賑やかな参道を過ぎると 「橋姫神社」 に着きます。

⑦ 橋姫（はしひめ・45帖）

古来、橋姫は宇治川の守り神です。元々は宇治橋西詰に祀られていましたが、明治 3 年の宇治川洪水で現在地に移されました。 写真の、向かって左が橋姫社、右が住吉大社です。 縁切りと縁結びが並存しています。

物語は； 都で早くに母を亡くした光源氏の異母弟、八の宮は、ひっそりと宇治の地で二人の娘（大君と中の君）とともに世をしのんで暮らしていました。 仏道にいそしむ八の宮を薫は敬服し、たびたび宇治の八の宮邸を訪ねます。 晩秋のある日、八の宮邸を訪ねた薫は、琵琶と琴を奏でる美しい姉妹を垣間見て恋心を覚えます。 宇治十帖の物語の始まりです。

再び八の宮邸を訪れた薫を八の宮は歓迎し、娘たちの行く末を薫に託します。 その折、薫は姫君に仕える老女房から、自分が（光源氏の子ではなく）柏木の子供であることを知らされます。

⑧ 夢浮橋（ゆめのうきはし・54帖）

宇治橋西詰は 「夢の浮橋ひろば」 です。 石柱や紫式部像があり観光客の撮影スポットになっているので、いつもたくさんの人でにぎわっています。

「夢浮橋」は 54 帖ある長い源氏物語の最終帖です。
その物語は；

薫は、比叡山に吉川の僧都を訪ね、浮舟が助けられたあと出家したいきさつを聞く。 薫は浮舟に逢いたくて、小君（浮舟の弟）が薫の手紙をもって浮舟のいる小野を訪ねた。 しかし、浮舟にきっぱりと面会さえも拒絶され、しょんぼりと小君が薫のもとに帰ってきた。 薫は、ほかの誰かが浮舟を囲ったのでは？などと、思い乱れる。

仏の道に心を委ねて安寧を図った浮舟と、男女関係にいまだ疑惑を抱き続ける薫の姿が対照的です。

この地、夢浮橋遺跡で全行程完了です。 ガイドさんたちにお礼を言って解散しました。

宇治十帖スタンプラリー

ガイドさんのご指導により 「宇治市観光センター」 主催のスタンプラリーに応募し、記念バッジ（右写真）をゲットしました。 抽選は外れました。

津垣様が撮影された写真を多く使用しました。 ありがとうございました。